

月刊 おかじょうき

<http://www.okajoki.com/>



2024

3

無人駅鑑賞「カンテラ」 むさし	4
会員雑詠集「無人駅」	7
■例月句会結果■	
おかじょうき川柳社 2月例句会	19
川柳吟行会「ぼ」	28
十和田たてがみ川柳会 1月句会報	25
■連載■	
「深艘心理」 奈良一艘	18
Infomation	32～

カンテラ

むねこ

インターネットのニュースを見ていたら、ジュリーと歌手の沢田研二さんが出ていた。

恒例の正月ライブ「沢田研二正月LIVE2024『甲辰静かなる岩』」の千秋楽で、歌詞や歌い出しの間違いが多かったそうで、難聴で視力も低下しているらしい。

ジュリーもやはり人間で、私と同じ後期高齢者。75歳になってしまったけれど、私は句を作り続けるつもりです。

それではカンテラに明かりを点しましょう。

鈍感力つけて砂漠を生き抜こう

葉 閑女

最初はふわりやがて根雪の嫉妬心

きょうぎ彼句吾

再開発してます私の湿地帯

まきこ

まきこさん、「私の湿地帯」ってどこにあるの？湿地は「湿気が多く、じめじめしている土地。」（デジタル大辞泉）で、湿地の特徴を備えた地帯（地域）が湿地帯だね。年を重ね、メンタルもフィジカルもあちこちが乾き気味になったけど、しつとりとした自分を取り戻そうってことかな。湿地帯再開発計画万歳！

B群

じよっぱりが鍋の底から這い上がる

三浦蒼鬼

終電を降りてからだよ月の道

吉田吹喜

調合しますこの年に合う日暮れ

岩根彰子

蒼の匂いのする方にだけ歩いてる

笹田隆志

ふところからやさしい方の鬼を出す

柳本恵子

鋭角に走るヤモリの背に董

安藤なみ

深くなる闇 語尾だけ伸ばされて

宮井いずみ

A群

老眼鏡かえても見える世のつらさ

村上てる

フムフムを背中に着けて歩いてる

辻井洋子

インボイスってなあに本日なめこ汁

土田雅子

台所で母の欠片を探してる

村上あつこ

パソコンはご機嫌ナメ春の雨

熊谷冬鼓

以後のこと問わず語らず寒晒し

斎藤泰子

俺だけの画布へ他人が色を塗る

瀧尻善英

過去形にすると強気の三面鏡

一帆

ピッピーと家電かしまし名をななれ

吉田州花

竹輪には穴があるから呼吸する

ひらく

不真面目でいいさ地雷は捨てました

夏草ぶぶき

お返事は空気を抜いてからにして

米山明日歌

ひと月分の水平線をいただくわ

須藤しんのすけ

本日の悪意がやれと言っている

芝岡かんえもん

芝岡かんえもんさん、「悪意」って「善意」の反対ですよ。この句を読むと、かんえもんさんの身体には「悪意」と「善意」が同居していて、どっちも毎日変化し拮抗しているようです。で、きょうは「悪意」が「善意」より強いとかになる…。「悪意」が何を「やれ」と言っているのかは句を読んでも分からなくて困るけど、「本日の悪意」を発見したかんえもんさんは格好いいですね。

C群

記憶があるうちに御飯を食べている

小野五郎

ご面倒かけますあたし段差です

守田啓子

今日初めて猫が液体だと知った

ひとり静

哭く時間、鼻嘔む時間、翔ぶ時間

奈良一艘

小野五郎さん、私は「記憶」が「御飯を食べる」ことと関係があるなんて思ってもみませんでした。「記憶」をなくした人は「御飯」の味が分からなくなったりするのかな…。おいしいとか不味いとかは「記憶」が判断しているのかな…。記憶、大事にしなくっちゃ。

守田啓子さん、「段差」って、もしかしたら能登半島地震のニュースを見て「あ！」と思っただけじゃない？地震のせいで道路や田んぼや海岸などに段差ができ、大変なことになっているものね。あれ？違う？もしかしたら啓子さん、テンネン何とかが普通よりワンランク上だっただけなのかな？違うかな…。

ひとり静さん、「猫」は「液体」だったのですか？「猫」って「三味線」や「猫車」のことでもあるけれど、この句の「猫」はネコ目（食肉類）ネコ科の哺乳類のうち小形のもののことですよ。液体は、広辞苑第七版によると「liquid」物質の状態の一つ。水や油のように、一定の体積をもつが一定の形状をもたないもの。このこと。とこうことは、「猫」は「一定の体積をもつが一定の形状をもたないもの」だっただけのことなん

だね。なるほど。ところで、猫の名前人気ランキングというのがあって、2023年は第1位が「ムギ」で、第2位「ルナ」第3位「ソラ」第4位「レオ」第5位「モモ」と続くって知ってた？

奈良一艘さん、ややこしい漢字を使っていますね。「なく」は広辞苑第七版だと【泣く・鳴く・啼く】が出てきて、『人間の場合は「泣く」と書く。』とあります。漢字の「哭」を調べると（死者をとむらって）大声をあげて泣く。とありました。次に出てくるのが「鼻嚙む」。普通「鼻をかむ」は「鼻を擤む」と書くんだけど「上下の歯を強く合わせる」「上下の歯で物を押しくだく」という意味の「嚙む」をわざと使って、「とが」も広辞苑を引くと「飛ぶ」「跳ぶ」が普通なのに「翔ぶ」で、「翔」という漢字を調べると『つばさをひろげるとびめぐる。空中をかける。』という意味があります。奥様を亡くされてまだ間もない一艘さんは、奥様と一緒に生きた貴重な時間を見つめ直しているんですね。たぶん。

おかじょうき川柳社会員雑誌集

無人駅

★無人駅2月月間賞

見知らぬ街の雨に濡れたい日もあって

柳本 恵子

旅男【たびお・青森県五所川原市】

無香消臭 さゆりさん
蝟燭の煤払い りょうこさん
ぬるつととぐる眼を流すだんの蜜
付き人が持つさんまのシラップ
笑いのビート背中に入れる墨

先月号の
お気に入り

男替え次の不幸の味を見る
何んとも、被虐的な。癖になりそう。

夏草ふぶき

辻井洋子【つじいようこ・青森県青森市】

キラキラとギラギラ抱いて山越える
フムフムを背中に着けて歩いてる
良く笑う表情筋を備蓄する
韓ドラの行方あずきの煮え具合
歌いなさい吹雪を脱いで春春と

先月号の
お気に入り

病院にシマウマキリンヌーガゼル
私の主治医はヌーですよう。

ひとり静

土田雅子【つちだまさこ・青森県青森市】

インボイスってなあに本日なめこ汁
もう咲くね、つて桜大臣うるさくて
世の中にマスク美人が多すぎる
春爛漫寝言の多い家系です
尽力を尽くしてしようが味噌おでん

先月号の
お気に入り

舞い上がった分だけ落ちている途中 齋藤泰子
舞い上がらせたのも私。なかなか完結出来なくてー

夏草ふぶき【なつくさふぶき・青森県青森市】

雪を踏むザクザク過去を切り捨てる
持ち重りしてくるあなたの両手足
不真面目でいいさ地雷は捨てました
腹黒いイカが一番正直だ
冬眠をしてみてもわかる生きる事

先月号の
お気に入り

沈んでしまえばそりやあ静かな海
沈むまでが勇気がいるのよ。

一帆

奈良一艘【ならいつそう・青森県弘前市】

蒙古斑から涙腺が剥離した筈だ
いづれみなそうなるエロイムエツサイム
歯型だけ一つ残して逝くのです
後悔と山の高さと不定愁訴
哭く時間、鼻嘔む時間、翔ぶ時間

先月号の
お気に入り

浮力を喪った君を失った
女々しいようですが、今更ながら身に沁みますです(涙涙)

きさちぎ彼句書

鳴海賢治【なるみけんじ・青森県つがる市】

老人性いぼが息吸う吐いている
DNAが同じです 鋭いね
座りごちよいです靴はそのまま
もめごとがこねくりまわる空気読む
湯加減はいかほどですかミニトマト

先月号の
お気に入り

舞い上がった分だけ落ちている途中 齋藤泰子
現在進行形がよかったです。

ひとり静【ひとりしずか・奈良県大和郡山市】

今日初めて猫が液体だと知った
間違はなく杭を打つなら水飲み場
ドラえもんいると思えばいい未来
白は白もうまつすぐに歩けない
モヤモヤの大きさ左手で測る

先月号の
お気に入り

要するに気の持ちようで変わる窓
いまは余りプラス思考できないからかな

まみどり

ひらく【ひらく・青森県蓬田村】

蒲公英の綿毛今日晴天へ浮き上がる
竹輪には穴があるから呼吸する
エメール開けばフリージアの香
跳ねつ返りから来た真面な年賀状
最初はグー百花繚乱春めいて

先月号の
お気に入り

まきどり【まきこ・青森県青森市】

再開発してます私の湿地帯
いつまでも君の代理はごめんだよ
騒がしいのはカラスだけではありません
灰色の雲とおしゃべりする真昼
負けは負け認めてみよう堂々と

先月号のお気に入り
ご飯炊くロマン飛行はまだ遠い 辻井洋子
なかなか日常からは抜け出せませんね。わかるわかる。

まみどり【まみどり・青森県黒石市】

一大事まさかまさかの食い合わせ
ショック死の入り口でしたアレルギー
衝撃が脳と体を駆けめぐる
非常時も止まらないのはエゴイズム
風圧がもたらしている安堵とは

先月号のお気に入り
沈んでしまえばそりやあ静かな海 一帆
とは思いますが…やはりもがいてしまつたでしょう。

村上あつこ【むらかみあつこ・青森県青森市】

君は孫と24時間戦えますか
雪岩崩れ落ちてる孫の跡
大寒の静寂地球温暖化
台所で母の欠片を探してる
幸運の女神はいつも上の空

先月号のお気に入り
広辞苑開いて閉じて難破船 吉見恵子
最近辞書を開いても遭難することが多くなりました

村上てる【むらかみてる・青森県青森市】

老眼鏡かえても見える世のつらさ
いつもある明日より今日を生きましよう
言葉に出来ない言葉ってなあに
りんごかむガリつと生きてる音がする
新刊書開くと新しい音がする

先月号のお気に入り
思いやり転がし平和はずませる 瀧尻善英
思いやりされたりしたりなんと平和な事でしょう。

三浦蒼鬼【みうらそうき・青森県黒石市】

無い袖へ黒ニンニクを一欠片
絶好調でした腐るちよつと前
じよつぱりが鍋の底から這い上がる
寂しいを持ち寄るそれも青春だ
預かったいのち背負って生きている

先月号のお気に入り

宮井いずみ【みやいいずみ・大阪府大阪市】

大地とは崩されてゆくミルフィーユ
深くなる闇 語尾だけ伸ばされて
衛星を三つも持つている彼女
バイバイマイラブ風邪には梅こぶ茶
洗濯のついでに冬の虹かける

先月号のお気に入り
銃口が白い鳥に向いている 安藤なみ
女だから、男だからという決めつけ。反旗を上げれば叩かれるが、それでも声をあげる人が増えたのは嬉しい。

守田啓子【もりたけいこ・青森県三沢市】

樹木葬庭の木と話をつける
その時は吸い込んで下さいね 空
みどりになるヒートテックな言葉たち
ご面倒かけますあたし段差です
シュミテクト絞る趣味ってなんだろう

先月号のお気に入り
ヒートテックにしたが寂しいわけじゃない 三浦蒼鬼
ちよつと年取っただけ・・・かな？

柳本恵子【やなぎもとけいこ・奈良県奈良市】

一抜けて考えている雪の刹那
表面張力の夢ひとしづくこぼれる
一人ゆく冬には冬の花が咲く
ちよつと焦げた端から食べるカステラ
ふところからやさしい方の鬼を出す

先月号のお気に入り
三日月をひっくり返す午前二時 熊谷冬鼓
真夜中のロマンを感じました

葉閑女【ようかんによ・青森県青森市】

窓辺からバツハおやつは甘納豆
ダメダメダメ和泉式部を忘れてる
棄てられぬ私を嗤う捨男クン
四十年前のベストも着ています
鈍感力つけて砂漠を生き抜こう

野心には毎日水をあげてます
大きく育つといいですね。
米山明日歌

吉田州花【よしだしゅうか・青森県青森市】

この世はそんな処です つて池澤夏樹
水色の種になれば逝くはずよ
月追って今まで生きたうさぎです
阿波踊りだった不惑のあたりから
ピッピ―と家電かしまし名をなれ

もと人魚今は魔女だという噂
こつ言われれば満足 だと思つ
嵯峨山登

吉田吹喜【よしだふぶき・青森県弘前市】

5キロ減消耗してるなんてウソ
終電を降りてからだよ月の道
不覚にも涙ぐんでる氷柱たち
ひとつでつくられたものの最期つて
わたしはわたし満月だからつてなにさ

缶コーヒー開けて平和を飲んでいる
平和を飲んでいるというところにジーンときました。
坂本清乃

四ツ屋いずみ【よつやいずみ・北海道札幌市】

仏頂面にかぎそう花びら餅
不真面目は不真面目なりのカロリー表
豆苗に追い越されてる厳冬夜
ブレーキをかけてくださいブリザード
あれもこれも龍の仕業にしないでよ

裸の王様あなたは何をしたいのか
いいですね。そう声をかけたい人はあちこちにいます。
木村美映

米山明日歌【よねやまあすか・静岡県長泉町】

この先を死なせてしまふ浅い息
何故なんて聞くから味が決まらない
お返事は空気を抜いてからにして
過去掘れば錆びたナイフの二つほど
つぶやきを焦がしてしまふ夕まぐれ

どちらかと言えば清少納言です
啓子さん。わたしも清少納言です。
守田啓子

安藤なみ【あんどうなみ・愛知県瀬戸市】

一階のカ列に並ぶ花曇り
シジミチョウ品質管理出来てない
せせらぎはチック・コリアを抱いている
雨が降る共同墓地にファンファーレ
鋭角に走るヤモリの背に葦

電気代節約釜で炊くご飯
焚き木で釜で。おいしそつ。
城後朱美

一帆【いちほ・秋田県秋田市】

右手には時々離す夫の手
胸を張るいいねいいねと連打して
ご無沙汰のワインの産地確かめる
いい人に紛れ込んでる宇宙人
過去形にすると強気の三面鏡

楢形おだてに乗ってしまったわ
私も時々おだてに乗ってしまいます。
まみどり

岩根彰子【いわねあきこ・京都府京都市】

源氏絵巻の所為で50円禿げ
調合しますこの年に合う日暮れ
いち日9千歩淋しいことです
求愛のポーズピンナップな歩道橋
モノクロの写真にひよいとかくれんた

誰の雨だるう炎上しちゃってる
雨が炎上ッオモシロイ。
尾崎良仁

戎踊兵【えびすようへい・青森県外ヶ浜町】

二日月志功の筆の片乳房
平凡に生きて綺麗なトリカブト
永遠がついて来るので急ぎます
野葡萄に洒落た廃墟にされちまう
野葡萄のラピスラズリの深い淵

先月号のお気に入り
野ぶどうとあと幾度の瑠璃色を 吉田州花
同じ実を見ていたような気がして嬉しいのです。野葡萄の白の丸みは由美かおる。

小野五郎【おのごろう・青森県青森市】

ステーキにあんまりスリット入れないで
一気飲みする黒ビールの卵
自動音声ブブのところで囁んでいる
春の野に置き葬ひとつある風景
記憶があるうちに御飯を食べている

先月号のお気に入り

金瀬達雄【かなせたつお・富山県高岡市】

崖つぷち黒山羊が喰う日本地図
実は僕も彼と同じく九官鳥
元カノの生家は空き地 雪のトド
ボスだけが待っててくれる向こう岸
幸せは山のあなたの川の文字

先月号のお気に入り
雨粒がぱたりぱたりと猫になる 森砂季
Xのさみしい夜の句会の仲間です。カワイイ句ですね。

きさらぎ彼句吾【きさらぎあくあ・青森県弘前市】

ふんわり聖夜にしてしまう粉雪の嘘
鬱陶しいのよ保護色の上から目線
最初はふわりやがて根雪の嫉妬心
不等式のこつち側だけ陽こ当だね村
小数点以下の以下ですけど ○

先月号のお気に入り
泣けば済むものを集めて燃やしてる 米山明日歌
意地っ張りな私は背骨にしています(笑)。

熊谷冬鼓【くまがいとこう・青森県青森市】

パソコンはご機嫌ナナメ春の雨
どうなのどうなのつて前頭葉のパスワード
蓋は蓋で恩着せがましく叫んでる
軽く焦げ目ついたあたりで締めくくる
豚バラに大根 レンジが料理長

先月号のお気に入り
開けてゆけばひとつは余る鍵の束 ひとり静
その鍵で開けるべきか否か…という逡巡が。

坂本清乃【さかもときよの・青森県蓬田村】

一年の入口地震津波とは
銃口は正しい人を的にする
三が日喪が三件でぶっ飛んだ
飛行機炎上龍が舞う字余りの日
年明けに気付いてしまった黒子の毛

先月号のお気に入り
泣けば済むものを集めて燃やしてる 米山明日歌
泣いてしまった人はどうすればいいのかなあ

斎藤泰子【さいとうたいこ・秋田県大館市】

わたくしが揺るがぬように置く言葉
以後のこと問わず語らず寒晒し
雪積もる忘れていいというように
あけまして野心を口にしてもみる
平つたく言えばたいくつだつてこと

先月号のお気に入り
ここじゃないどこかに北を落としたの 須藤しんのすけ
それって結構やばいんじゃない？

嗟峨山登【さがやまと・佐賀県大和町】

ミズスマシ和歌も短歌も川柳も
川柳に訳して見ようオデュッセア
五七五イノック浪花節唄う
フィクションの歌集フィクションの句集
川柳で叙事詩を詠んでみる詩人

先月号のお気に入り
稲妻がバベルの塔を斬りに来る 瀧尻善英
神は雷。でも妻だとすると斬られるのは男たち。

笹田隆志【ささだたかし・青森県青森市】

蒼の匂いのする方にだけ歩いてる
蒙古文字の踊りはどこか寂しそう
青空の陥穽をうめる雲の闇
しあわせって思う先からふしあわせ
天国のツボはどこかに隠れてる

先月号の
お気に入り
ここまでの洗い晒しを捨てられぬ 齋藤泰子
洗い晒しのブルージーンズには半生が染み込んでいます

芝岡かんえもん【しばおかかんえもん・神奈川県横浜市の】

ごわごわのタオルの話し聴いている
シャクトリムシが進むオンナの溝の跡
本日の悪意がやれと言っている
裏側の香り恋しくてたまらん
満月や真水のままでいてあげる

先月号の
お気に入り
触れられた乳房が歌う「イエスタデイ」 夏草ふぶき
面白くて、そしてせつない。

須藤しんのすけ【すとうしんのすけ・青森県弘前市の】

時間差で目指した北の果ての街
ひと月分の水平線をいたたくわ
膝裏にゆるいとこあり豚の饅頭
青空に放物線の全音符
可愛さで更迭されるお雛様

先月号の
お気に入り
太陽が折り重なって出来ちゃった 田久保亜蘭
重なって出来ちゃったって…キヤッ！おめでとござい
ます♡

瀧尻善英【たきじりよしひで・青森県八戸市の】

鼻息の割には妥協癖がある
ブレーキが壊れたチャリの反抗期
満室の脳だねトコロテンになる
俺だけの画布へ他人が色を塗る
斜めから見れば空気が軽くなる

先月号の
お気に入り
産む苦痛もうたくさんと五人産む 村上てる
私は五人きょうだいの五番目。産むつもりはなかったオマケ
の子だったんですけど…。産んで良かったでしょ、お母ちゃん。

城後朱美【じょうごあけみ・福岡県八女市の】

餅四個食べた分だけ草野球
三日間続けることの難しさ
九十五の母と始めるヨガ呼吸
風邪気味なのに元日のハイキング
山が好き山と語らう風が好き

先月号の
お気に入り
遠くから母の呼ぶ声『ごはんだよ』 村上あつこ
母と暮らして十四年、今は、私が母を大声で呼んでいます。

Sin【しん・青森県外ヶ浜町の】

スコヤカナルトキハサスガニムリデス
手さげタイプのスタックカートならある
離婚に取っ手を付けると便利です
手書き風の不倫が美味しそう
なんでも叫べば必殺技になる 叫べ

先月号の
お気に入り
これを書いたのは絶対母パフェ ひとり静
母パフェがそんなこと書かなかあ。

むさし【むさし・青森県蓬田村の】

竜宮にスマホ忘れたおじいさん
ドラゴンの前を飛んでるシジミチヨウ
龍神よ時計の針を戻せるか
針土竜の巣かも知れないガザの地下
熱爛の猪口から龍が躍り出る

無人駅は自由な発表の場です。
未発表作品5句をお寄せください。
また、お手元の最新号から、お好きな作品とそれ
に対する簡単なコメントもお寄せください。

スマホやタブレッ
トで投句する↓



深艘心理

実は今ナイチンゲール症候群

須藤しんのすけ

(会員雑誌集 無人駅1月号より)

作者のしんのすけさんは同じ高校の17期下でちよくちよく酒を飲む仲の良い先輩後輩の間柄。

奥様は元看護師で今でも彼は奥様にベタ惚れなのだと言われている。掲句も「チツ、臆面もなく紙面でのろけやがって」と軽く考えていた句なのだが、なんとなく気になって調べてみた。

ナイチンゲール効果またはナイチンゲール症候群(Florence Nightingale effect)とは、看護提供者(通常は、看護師)が患者に対して、基本的なケア以上の関係がないにもかかわらず、恋愛・性的感情を抱いてしまう状況を指す。とある。えっ、待てよ。奥様の体が悪くて看病をしている話など聞いてはいない。そうなるここは一艘的妄想心理で捉えるしかあるまい。

しんのすけ氏は早期退職してから、暇に任せて何度か

気に入ったママの経営する、とあるスナックへ出入りするようになった。なんとかママの気を引くために、元職の知識をフル活用して経済面でのアドバイスやら何かと相談を受けるまで親密になっていった。ある日店をハネてから一緒に飲みに行った店で、そのママから彼氏との深刻な不倫の話打ち明けられてしまったのだ。元々はスケベ心で近づいた彼ではあったのだが、そこまで信頼されて心の底を打ち明けられては、おいそれと手を握ることもできないではないか。うーむ。ま、元々人の良さど面倒見の良さで定評のある彼はそれからというもの、ママへのナイチンゲール症候群のような気持ちで溢れかえっている。というのが掲句だとしたらどうだろう。へっへっへ。この妄想が当たっていない事を祈るのみなのだ。

大根煮崩れる

2月3日(土) 午後1時～ アウガ5F小会議室

▼出席者(17名)

奈良一艘・夏草ふぶき・原口健二・葉閑女・木村美映・渡邊こあき・守田啓子・野沢省悟・むさし・越田清四郎・Sin・須藤しんのすけ・笹田隆志・きさらぎ彼句吾・田中薫・熊谷冬鼓・小野五郎

▼投句者(19名)

安藤なみ・嵯峨山登・吉松澄子・米山明日歌・岩根彰子・柳本恵子・芝岡かんえもん・旅男・城後朱美・斎藤泰子・郷田みや・宮井いずみ・鳴海賢治・坂本清乃・まきこ・一帆・まみどり・村上あつこ・戒踊兵

おかじょうき川柳社

2月例会

席題『輪』

青森県弘前市 田中 薫選

【佳作】

だめですヨ輪ゴムで色気くくるのは 野沢省悟
 月蝕になったら海へ帰ります 奈良一艘
 えら呼吸してます指輪がきつ過ぎて 熊谷冬鼓
 輪になって踊ろう明日は晴れるから 木村美映
 螺旋階段を駆け上がつてくつむじ風 夏草ふぶき
 限界があるのよ輪ゴムなんだもの 熊谷冬鼓
 ラスボスの指輪優しい嘘をつく 須藤しんのすけ
 涙目で渡すこの世のフラフープ 奈良一艘
 満月が好きで軽トラ走らせる 笹田隆志

知らぬ間に脱輪してる二重奏

原口健二

主役にも輪にもなれない鬼は外

S i n

補助輪だった腐葉土だった歎異抄

きさらぎ彼句吾

輪郭なぞられる氷雨のくちびるに

きさらぎ彼句吾

独裁者の腰に殺戮のフラフープ

S i n

海になるやっど手錠が外される

奈良一艘

【秀逸】

樹木葬にしようシユールな輪になって 守田啓子
 ナマコ切るたましい輪切りするように 野沢省悟
 市中引き廻し指環というくびき 木村美映

【特選】

一輪ざしの一輪自覚する喪明け きさらぎ彼句吾
 ㊦ ありがとう頑張れそぞ。

席題『輪』

青森県青森市 熊谷冬鼓選

【佳作】

ストーンサークルの真ん中に住むカメレオン むさし
 月蝕になったら海へ帰ります 奈良一艘
 だめですヨ輪ゴムで色気くくるのは 野沢省悟
 主役にも輪にもなれない鬼は外 S i n
 輪郭なぞられる氷雨のくちびるに きさらぎ彼句吾
 市中引き廻し指環というくびき 木村美映
 満月が好きで軽トラ走らせる 笹田隆志
 巡り巡ってサザエさん家になる 田中 薫
 声が出てしまうじゃないのトルネード 夏草ふぶき

指輪だと思つたら首輪だった

むさし

今宵満月、回転扉から出でよ!

須藤しんのすけ

樹木葬にしようシユールな輪になって

守田啓子

一輪ざしの一輪自覚する喪明け

きさらぎ彼句吾

知らぬ間に脱輪してる二重奏

原口健二

飼い犬と離婚指輪を買いに行く

S i n

【秀逸】

海になるやっど手錠が外される 奈良一艘
 補助輪だった腐葉土だった歎異抄 きさらぎ彼句吾
 入れない誰でもいいという円座 渡邊こあき

【特選】

智慧の環がほどけないから生きてみる 木村美映
 ㊦ 生きてる意味はそんなことかとも思っ
 た。

宿題『キャリア』

青森県青森市 野沢省悟選

【佳作】

鬼は外ああ主婦業も半世紀

葉 閑女

この愛の賞味期限のわかる舌

米山明日歌

手づくりの名刺キャリアの自尊心

城後朱美

経歴に中型車免許以下余白

熊谷冬鼓

きつねうどんずっと中間管理職

宮井いずみ

雪月花重ね重ねてホスピス棟へ

岩根彰子

ともだちを人脈というキャリアたち

斎藤泰子

首の皺手の染みキャリアと言い張ろう

熊谷冬鼓

それなりのキャリアなんだろう？カモメの「カ」

む さ し

下積みのづみが背骨になったのよ

きさらぎ彼句吾

きやびきやびの陰陽師であるフライパン

小野五郎

軽トラにキャリアの春を積み残し

芝岡かんえもん

六十年鼻骨は曲げたままである

戎 踊兵

キャリアは短いがいいカボチャだ

坂本清乃

裂織のトートバッグに光る技

坂本清乃

入社以来おでんの底の昼の月

きさらぎ彼句吾

ノンキャリアだから進めるホワイトアウト

渡邊こあき

手に浮いた血管をたどれば野道

守田啓子

死してなお平和を叫ぶ清志郎

木村美映

ばあちゃんに握ってもらう塩むすび

守田啓子

【五客】

ベテランの鬼のようだ角がない

小野五郎

砂の城だったか政治家のキャリア

城後朱美

ノンキャリア四季の匂いを知っている

斎藤泰子

半世紀積み上げてきた「今年こそ」

戎 踊兵

飄々と人妻として午後辺り

一 帆

【人位】

履歴書は春の七草だったのね

郷田みや

【地位】

歯車を回しているのはノンキャリア

村上あつこ

【天位】

ただ付けてきたわけじゃないのよ乳房

田中 薫

新しい生命を産む力には脱帽するのみ。

田中 薫

宿題『志』

青森県蓬田村 むさし選

【佳作】

間違いは総理の仮面つけたこと

ま き こ

オキモチダケシカタナクイタダキマス

須藤しんのすけ

ノンセクトノンラジカルでノンキャリア

笹田隆志

七十歳のスタートラインだつてある

斎藤泰子

走るには上昇志向足りません

宮井いずみ

いつの間にか同志にされたコンペイトウ

郷田みや

志半ばの顔がちようどいい

戎 踊兵

金魚なのに大志があつて恥ずかしい

吉松澄子

この闇を一緒に抜ける志はあるか

ま き こ

どこまでもたまごサンドを求めます

鳴海賢治

鬼は外ワクチン7回うさぎ小屋

一 帆

ぐるぐるに巻いて仕舞つておいた道

渡邊こあき

志半ばで逝つた唐がらし

奈良 一艘

サムライが棲んでるじいちゃんのハート

須藤しんのすけ

オールドビーアンビシヤス 満月はそこだ

奈良 一艘

わたくしの凹みを試す虎落笛

米山明日歌

君たちの目が語っている白いノート

田中 薫

固まらぬプリンにもある志

米山明日歌

氷だった頃には戻れない水

米山明日歌

一枚の鱗に乗せて来る寸志

安藤なみ

【五客】

餓死病死自然死孤独死ココロザシ

奈良 一艘

おにぎりの具になる覚悟ならあるぞ

野沢省悟

故人の遺志です 柩の窓はあけないで

守田啓子

老人が歩いて行く方角が北である

小野五郎

最後の女で散りたい薔薇の赤

きさらぎ彼句吾

【人位】

セミコロンになります厠にいます

岩根彰子

【地位】

桐島聡のメガネに似合う多重奏

S i n

【天位】

宣戦布告の時涙を流していましたか

小野五郎

か。 宣戦布告って、そういうことだったの

宿題 『自由詠』

青森県弘前市 きざらぎ彼句吾選

【佳作】

断水が続くコメント漏れてくる
 青空の思わせぶりが許せない
 大安の回転ドアに紛れ込む
 ライオンも老いた椿の花ポトリ
 干し柿が私の顔に似せてくる
 歯磨きを終わると虹が出る鏡
 質問に質問返し鼻の髭
 春の花こころを開くように咲く
 亡父亡母が手を振ってたのもう寝ましょ
 鍋底のヒントをつかみ損ねてる
 水かさが増して昨日に戻れない
 うなじから海のしたたるおとがする
 地吹雪を連れてきたのはお前だな
 活断層おまえも桜見たいだろ
 雑草に口づけそれがはじまりの・は

鳴海賢治
 まきこ
 渡邊こあき
 奈良一艘
 夏草ふぶき
 戎 踊兵
 旅 男
 夏草ふぶき
 守田啓子
 斎藤泰子
 まきこ
 奈良一艘
 むさし
 坂本清乃
 田中 薫

歳時記のわがままに似た赤の言の葉
 わたくしをつまびらやかにするとして
 遊ばせた答えを持つて逢いに行く
 君といてプラスチックな夜になる
 約束の海を少々泡立てる

須藤しんのすけ
 S i n
 米山明日歌
 米山明日歌
 芝岡かんえもん

【五客】

昨日の雪が私の返事です
 傷乾くように風ある方へ向く
 白からは何も貰えず帰ります
 否定から始まる返事雪しとど
 和やかな話の上に盛るわさび

守田啓子
 斎藤泰子
 米山明日歌
 渡邊こあき
 渡邊こあき

【人位】

霜柱さくさくそんな別れ方

守田啓子

【地位】

誰だろう涙の味を決めたのは

むさし

【天位】

沈黙の先で大根煮崩れる

一帆

↑ 重苦しい空気感を感じた。

十和田たてがみ川柳会 二月例会

○日時 1月20日(土)

○会場 十和田労働福祉会館

○参加者 木村奈生美・久保あざみ・斉藤蛙井・

佐藤まさあき・白山修治・瀧尻善英・福田芳記・

村上昌子・高田幸柳

○投句者 磯島雅男・城後朱美

■席題 『ヘルパー』 齊藤 蛙井 選

【平抜き】

半眼の菩薩に見えている介護
 ヘルパーの背なに自負する苦勞性
 ヘルパーで社会貢献定年後
 ドラえもん型の介護はきつといる
 ヘルパーが来る日のために覚え書き
 ヘルパーが来る日はいつもより元気
 抱いた子がヘルパーになり今抱かれ
 ヘルパーが家族の絆強くする
 ヘルパーの言うこと素直ながんこ爺

瀧尻 善英
 木村奈生美
 佐藤まさあき
 瀧尻 善英
 高田 幸柳
 高田 幸柳
 高田 幸柳
 瀧尻 善英
 高田 幸柳
 高田 幸柳
 佐藤まさあき

【秀逸】

介護から知る人生の知恵袋
 笑顔一番介護する人される人

木村奈生美
 佐藤まさあき

【特選】

寄り添いのヘルパーが聴く胸の声

木村奈生美

■席題 『ヘルパー』 瀧尻 善英 選

【平抜き】

その昔介護の仕事してました
 ヘルパーがくらし支える介護3
 ヘルパーを頼らない日々心掛け
 ヘルパーで社会貢献定年後
 ヘルパーの様に寄り添うタマ親子
 ヘルパーが来る日のために覚え書き
 老介護ヘルパーさんと手を組んで
 エベレストヘルパーが有り頂上へ
 寄り添いのヘルパーが聴く胸の声
 【秀逸】
 ヘルパーさん古武術の技生かしてる
 ヘルパーが来る日はいつもより元気

久保あざみ
 齊藤 蛙井
 白山 修治
 佐藤まさあき
 村上 昌子
 高田 幸柳
 齊藤 蛙井
 久保あざみ
 木村奈生美
 福田 芳記
 高田 幸柳

【特選】

笑顔一番介護する人される人

佐藤まさあき

■宿題『返事』

村上 昌子 選

【平抜き】

退職後張りのない声「今起きる」

久保あざみ

生返事しながら風を読んでいる

瀧尻 善英

良い返事心明るくして呉れる

木村奈生美

空返事息子視線はゲーム中

高田 幸柳

生返事イエスカノーか分からない

城後 朱美

初めての句会戸惑う返事まで

磯島 雅男

絵手紙で返事を貰う友が有り

久保あざみ

返事だけ立派に見える空元氣

木村奈生美

○とれた燕のように返事きた

斉藤 蛙井

つま先はあつちを向いている返事

瀧尻 善英

催促の二つ返事に角が立つ

高田 幸柳

散歩だよ返事ないけどしつぽ振る

久保あざみ

【秀逸】

春とおし待ってた返事さようなら

斉藤 蛙井

即答の二つ返事は侮れぬ

高田 幸柳

【特選】

沢庵が漬かりポリポリいい返事

瀧尻 善英

■宿題『ペン』

佐藤まさあき 選

【平抜き】

ペン先を舐めてがっちり獲る天位

瀧尻 善英

擦り減ったペン懐かしむ五七五

木村奈生美

知らぬ間に亡父に似てきた赤いペン

高田 幸柳

アイディアのインクは涸れぬペンの先

瀧尻 善英

ペンネーム嘘が平気になる怖さ

高田 幸柳

横暴な脅威屈せぬ強いペン

瀧尻 善英

ペン先が命与えた文字踊る

斉藤 蛙井

年賀状年に一度の太字ペン

福田 芳記

赤ペンに誉められた事無い私

木村奈生美

万年筆腹が減ったとかすれ出す

福田 芳記

家計簿へ妻は三色ボールペン

城後 朱美

書きやすいペンがペラペラ喋りだす

城後 朱美

【秀逸】

ペンダコが真実を知る事件記者

村上 昌子

メール化でペンが淋しく泣いている

斉藤 蛙井

【2月号 訂正とお詫び】

20ページ上段 野沢省悟句

誤 シン・ゴジラになったら駆落ちしよう

正 シン・ゴジラになったら駆落ちをしよう

20ページ上段 渡邊こあき句

誤 会えなかった約束のドラマうむ

正 会えなかった約束次のドラマうむ

21ページ下段 須藤しんのすけ句

誤 す・す・とするのどあめのあまいうそ

正 すーすーとするのどあめのあまいうそ

22ページ下段 嵯峨山登句

誤 死語きみの本のカバーになります

正 死後きみの本のカバーになります

23ページ上段 斎藤泰子句

誤 薔薇と茨多少の差は気にしない

正 薔薇と茨多少の誤差は気にしない

◆十和田たてがみ川柳会三月句会案内◆

【時】3月16日(土)午前10時から 【所】十和田労働

福祉会館 【宿題】(各題三句詠)『未だ未だ』久保あざ

み選/『丸い』斉藤蛙井選 【互選】(一句詠)『真ん中』

当日出席者のみ(句せんの裏に柳号記入) 【席題】一

題(三句詠・共選) / 選者は、瀧尻善英ほか出席者か

ら一名 【投句先】〒034-0212 十和田市米田字桜平72
高田幸柳宛

互選

- ① 臍の緒が切れてもペタリ母の愛 村上 昌子
- ① 臍の緒を煎じて祈るガールーム 磯島 雅男
- ① 臍曲がり臍をこっそり臍直す 瀧尻 善英
- ② 出しているとかみなりさまに取られるぞ 村上 昌子
- ③ 嫁ぐ娘に臍の緒持たせる母の愛 佐藤まさあき
- ③ 今までも臍で笑った事がない 久保あざみ
- ③ 臍曲がり目立ち始める反抗期 木村奈生美
- ④ 臍の位置まだ定まらぬ日本丸 高田 幸柳

【特選】 正義派にペンを折らせる独裁者 福田 芳記

川柳吟行会「ぽ」課題『踊る』

兼題が動詞の場合は動作する主体の選択が重要になります。「動く」だと何が、誰が「動く」のか。書き手の側で考えると読み手が映像化しやすい具象、あるいは想像力を喚起させるような事象を書く、ということになります。その点を考慮すると上位句はモアイの踊り、シニアのフラダンス、青春のジルバ、と要件を満たしたものになっています。皆さんの踊る兵士の句、川柳において本歌取りは短歌ほど確立された様式ではありませんが、こういう句会をきっかけにして埋もれてしまいそうな句が次世代へ読み継がれていったらいいと個人的には思っているので特選としました。(月波与生)

【9点】特×2・佳×5
さみしいのだるうモアイが踊ってる 月波与生

【朱美】動かないモアイ像の気持ちを考えるやさしい作者。真夜中に踊ってるモアイ像が浮かびます。【ふぶき】モアイは動かないものと思っていたがさみしいと踊ることがあるのだということは、思い込みで人を見てはいけませんね。【まあこ】俯きかげんで踊るモアイが目に見えなくなります。【善江】見てみたいものです。さみしさを分け合いながら……。【規子】ずうーつとじつとしているのも確かに退屈。誰かと会いたい話したいだろうなあ。【さち】像の下から白骨が出てきたそうであるの悲しい顔していますね。【冬鼓】大勢でいるのに視線を交わさぬモアイ像たち。現代社会をも連想する。

【8点】特×2・佳×4

断崖の水仙シニアのフラダンス 宮井いずみ

【冬鼓】断崖でも群生する水仙は見かけによらず強い植物だ。毒もある。体幹を要するフラダンスの強さと明るさ。シニアに吟行感がある。【文音】福島の常磐ハワイの映画を思い出しました。水仙とシニアにひかれました。【達雄】断崖の水仙が的確。フラダンスで自虐から道化句に変わる。【与生】断崖の水仙 ≡ シニアのフラダンスの関係。バランス的に「断崖の水仙」が弱い。【かなえ】「シニア」がちよっと気になるけれど、取り合わせが面白い。【ふぶき】水仙の花言葉は「うぬぼれ」高慢なシニアも足元はおぼつかないのです、いたわりましょう。

その遠く天鈿女という記憶 笹田かなえ

【規子】石川さゆり風の盆恋歌を思い出した。この句の作者はこの時の恋は初恋だったのか？告白出来ずに終わったのか色んな事を想像させてくれる。【啓子】いぎとなったら何でもやれる。母性とは女とはそういうものかもしれない。【与生】「踊る」で天鈿女(アマノウズメ)を引っ張ってくるとは。【しんのすけ】踊り子の記憶は一瞬。激しく輝いて消える。【隆志】古事記のアメノウズメの記憶とはすごい。

【5点】特×2・佳×1

Aーに負けて踊り子らしくなる 城後朱美

【達雄】Aーと踊り子の勝負とその後の味のある踊りへの変化が感じられる。そして「踊り子」は「柳人」等と想像が広がる。【彰子】AIと互角に対峙する表現が目新しいのと『踊り子らしくなる』が上手いと感じる。【州花】負けても勝つて踊り子は踊り子らしくがいい。

玉ねぎを銚色にしてフラメンコ 夏草ふぶき

【いずみ】玉ねぎを焦がさず銚色にするのは根気がいる。うまくできれば嬉しくて、右手を高く上げるフラメンコ

【6点】特×1・佳×4

青春はジルバ ラーメン五十円 吉田州花

【隆志】50年前は青春。その頃はラーメン50円。それが今は1000円、なんと20倍。今のジルバの価値は？【吉見恵子】ジルバでしたね。ラーメンは50円でしたか。【文音】昭和の時代は長かったけれど、私の青春は1960年代ラーメン50円時代につきる。【彰子】当に昭和！『は』が全てを語る。【かなえ】昭和の懐かしさに一票。外食のラーメンはご馳走だった。

のポーズ。【かなえ】鉛色の玉ねぎの情熱的なこと。玉ねぎを炒める時の音まで聞こえる。気合を入れて「オレッ！」【規子】鉛色確かに食欲出るし、句から料理中の絵が浮かぶ。

【4点】特×1・佳×2

日めくりがステップを踏む年の暮れ 夏草ふぶき

【こあき】ステップを踏む、が楽しい年の暮れを予感させ、ほっとします。【朱美】忙しい年の暮れをうまく表現、楽しい句。【吉見恵子】慌ただしい年の暮れのステップですね。

こぬか雨踊る兵士が行く先は 滋野さち

【与生】へ小糠雨やにわに踊り出す兵士 北野岸柳のオマージュであろう。あの日踊った兵士が再び踊りはじめる。【啓子】どこに行ったらいいのか。もっと早く教えてと叫ぶべきだった。【冬鼓】そぼ降る雨、先の見えない戦地の兵士を思った。

ストリップ小屋で見た月の裏側 月波与生

【吉見恵子】楽屋で美しい踊り子の素顔を見ましたか。

ひっそりと獣の集うシテの声 小野善江

【啓子】能面の下は「獣」。不気味なこの世の本当の姿か。鳥肌が立つ。

シリウスはひとり踊りの輪を抜けて 宮井いずみ

【善江】詩的でいいなあ・・・。

黄ばんでも踏まれてもまだ踊りますか 守田啓子

【柳本恵子】いろんなことがあってもまだまだ踊りたいです。

はずれくじ束の間の夢燃える「ミ 村井規子

【しんのすけ】踊りまくるのは結果の寸前まで。それ以降は天国でも地獄でもゴミ同然。生きる事って全てギャンブルなのだ。

【2点】佳×2

ダンサーの影が狐になっている 小野善江

【こあき】ダンサーの心の中が影に、とよみました。【いずみ】映像がぱつと浮かぶ句。ここからの展開を聞き

物語性を感じました。【達雄】川柳の反逆性・猥雑さを意図して詠んでいる。【ふぶき】月の裏側はストリップより興味を引きます。人の心の裏側にも気づける人になりたいです。

白波が踊る楽しんだもの勝ちですよ 渡邊こあき

【さち】シャチのように跳ねて水しぶきをあげたい。生きていくうちは力一杯楽しまなくちゃですね。【朱美】人生は一度、思い切り楽しみましょう。【柳本恵子】本当にそう思います。

【3点】特×1・佳×1

流星群天動説で見上げてる 熊谷冬鼓

【州花】事実がどうあれ天動説が好き。【しんのすけ】流星は空が動いてる証。疑惑に胸が高鳴る。

【2点】特×1

沸騰化それでも戦争「ええじゃないか」 吉見恵子

【まあこ】私たち地球の信じられないようなこの現実。「ええじゃないか」で悲しさ辛さをより強く感じます。

くなる。

踊れない両手両足夕焼けて 守田啓子

【文音】心が夕焼けにならないように。【彰子】他に見ぬ夕焼けの使い方に驚いた。

【1点】佳×1

カレンダー残り一枚踊りだす 渡邊こあき

こめかみがヒリヒリ舌を踊らせる 笹田隆志

ツイストをまだやらされる麝香鹿 金瀬達雄

フライパンとワルツを踊る六時半 吉見恵子

星影のワルツを綿虫と踊る 岩根彰子

巻き戻すマイムマイムのがぎぐげご 熊谷冬鼓

下巻の端で吹っ切れたトシューズ 福田文音

天高くじよんがら節のライダダンス 笹田隆志

おかしょうき川柳社ウェブサイトからの投句について

現在、おかしょうき川柳社のウェブサイトは、サーバー移転のため、一部サービスが使用できない状況となっております。

みなさんがよく使用する「投句ページ」もすべて Google フォームへ移行して対応しています。

ただ、投句された方から、「画像認証がうまくいなくて投句できない」という声が多く寄せられています。これは、ロボットによる大量投稿を防ぐためのセキュリティとして行われています。

画像認証が出てくる人と出ない人がいますので、下記の方法をいくつか試してください。

①「Google Chrome」でウェブサイトを開覧する。

Android のスマホだと標準で「Google Chrome」となっているのですが、iPhone は標準が「Safari」になっているため、画像認証が出てくるようです。**iPhone の方は、右の QR コードから「Google Chrome」をインストール**してみてください。



② Google アカウントを作成する

iPhone の「Safari」を使用している場合、**Google アカウントを作成してログイン**すれば、画像認証は出てこなくなります。Google アカウントを作成しておけば、いろいろなサービスがありますので、作ってみてはいかがでしょうか。



③画像認証を突破する

画像認証は右の例でいうと、9つのタイルから自動車が映り込んでいるものを**すべて選択**します。なかには、ギリギリに映り込んでいるものもありますので、注意が必要です。ただ、**間違えても全然大丈夫**なので、それらしいものを選択して「確認」を何度か押してみれば突破できるはずですよ。



わかりにくい問題だった場合、ここで問題を変えれます



□ 2024.03.09 「らくだ忌」第3回川柳大会

【とき】2024年3月9日(土) 午前10時開場出句締切午前11時30分【ところ】ラポール京都(京都労働者総合会館)2階大ホール 阪急京都線・西院駅より徒歩7分 〒604-8854 京都市中京区壬生仙念町30-2 TEL075-801-5311【宿題】『つくづく』なかはられいこ選(岐阜) / 『追伸』藤井智史選(岡山) / 『鼻歌』まつりべきん選(枚方) / 『こめかみ』月波与生選(青森) / 『さやさや』矢沢和女選 / 『祭笛』木本朱夏選 / 『雑詠』くんじろう選(大阪)【事前投句】『副作用』森茂俊選(茨木) ※拡大2句出し(事前投句1句出し)・各題に秀句賞【締切】事前投句・欠席投句 2024年2月9日(金) 当日消印有効 封書でお送りください。【事前投句・欠席投句送付先・お問い合わせ】川柳らくだ忌・実行委員会事務局 〒567-0057 大阪府茨木市豊川1-17-6 森 茂俊 まで

□ 2024.03.29 '24 京都みんなの川柳誌上大会

【宿題(各題2句・未発表句に限る)】「線」岩田多佳子選(前年度優勝者・京都市)「そぞろ」斉尾くにこ選(鳥取県)「北」浪越靖政選(江別市)「挑む」みつ木もも花選(敦賀市)「突く」むさし選(青森県)【投句締切】令和6年3月29日(金) 必着【投句用紙】規定の用紙をご使用下さい(コピー可)【投句料】1,000円(定額小為替または現金、切手は不可)【発表】6月に作品集を郵送【賞】各題特選句と秀句2句に呈賞。成績を合点し上位から誌上大会実行委員会賞、福知山市長賞、福知山市文化協会賞、京都新聞賞、京都川柳作家協会賞を贈呈【投句先・問い合わせ先】〒606-8306 京都市左京区吉田中阿達町18 シオン6 中野六助方 京都みんなの川柳誌上大会事務局あて TEL.090-7107-2006【主催】京都みんなの川柳誌上大会実行委員会【共催】京都川柳作家協会

□ 2024.04.21 青森県川柳連盟 第1回 あおもり春の川柳まつり

【日時】2024年4月21日(日) 12時受付/席題発表12時30分/投句締切13時30分/披講14時30分【会場】アウガ5F研修室(青森駅前)【会費】1,000円(発表誌含む) *懇親会はありません【披講】司会:北山まみどり/文台:守田啓子・滋野さち【席題と選者】1題2句詠『 』2人選(選者は当日参加者に依頼)【宿題と選者】2句詠 *投句拝辞『輝く』碧井溪翠選 / 『ゆっくり』太田久選 / 『寺』高森ましら(俳人)選【第1回川柳まつり大賞】(2句詠)『自由吟(雑詠)』熊谷冬鼓・瀧尻善英・千鳥鉄男選 *対象は3人による合点の1位【賞】☆各特選作品および川柳まつり大賞に呈賞★ユーモア賞(当日の入選全句より、高瀬霜石選で数句に呈賞。発表誌にて発表)【問合せ】青森県川柳連盟事務局 濱山 Tel080-5574-9297

■会費拝受【1月受付分】 ※太字は新会員

高橋光子 (愛媛県) / 金瀬達雄 (富山県) / 田久保亜蘭・一帆 (以上秋田県) / 藤田めぐみ (東京都) / 森茂俊 (大阪府) / 菊池京 (青森市) / 田中薫・吉田吹喜・さいとうみき (以上弘前市) / 木村奈生美 (十和田市) / 旅男 (五所川原市) / 白戸まつ子 (つがる市) / 柳谷たかお (外ヶ浜町)

■おかげょうき川柳社会員募集中!

会員ならびに当誌購読希望の方は、下記の口座までお振り込み下さい。

→郵便振替 No.02280-6-43112 口座名:おかげょうき川柳社

→会費:6,000円(1年分)

おかげょうき川柳社 お問い合わせ先

●投句以外のことについてはこちらへ●

熊谷冬鼓 toko@okajoki.com FAX.017-752-3759
(〒039-3502 青森市久栗坂字浜田87-2)

終着駅 Sin

◆今クルールのドラマの中では、やはり「不適切にもほどがある」が断然面白い。主演は阿部サダヲ、脚本は未だにぶっ飛んでる宮藤官九郎。簡単なあらすじを書くと、昭和61年の中学校の体育教師で野球部の顧問である男がひょんなことで、38年後の現代へタイムスリップしてくるのだが、すること言うことがすべて不適切な言動となってしまうドタバタコメディである。「頑張る」と言えばパワハラになり、「可愛いね」と言えばセクハラ、言葉を発するとハラメントと言われる時代。島津ゆたかの「ホテル」を歌えば不倫でNG、沢田研二の「カサブランカ・ダンディ」はDVでNG、石川ひとみの「まちぶせ」はストーカー扱い。おニャン子クラブに至っては、「セーラー服を脱がさないで」「およしになってねTEACHER」と、歌詞を確認せずとも曲名だけでアウトなのがわかる(笑) ◆視

聴者層も10代と50代の男性が多いそう。10代はパスでタバコを吸うシーンとか、部活中に水を飲むとか、昭和ならではの言動が新鮮なのだろう。50代は、この頃は良かったなー、というノスタルジックな気持ちになれるのが人気の要因だろう。昭和の価値観がおかしかったのも事実だが、現代が行きすぎているのも事実だと思うのだが、さて◆とはいえ、現代の男性陣は、しつこく迫るとストーカー行為で逮捕、運良く付き合えたとして、同意のつもりで性行為をした数年後、あの性行為は同意していないと訴えられるのであれば、もはや男性は恋愛に関しては詰んでいる。最近は、行為の前に確認事項にチェックしてもらおうアプリのようなものもあるそうで、いやはや、ムードのかけらもない(笑)「昭和に生まれて良かった」も男性特有の不適切発言なのだろう(汗) ◆Sin

おかげょうき川柳社 作品募集案内

□ 2024.03.13 「川柳吟行会 ぼ」3月句会

【投句締切】3月13日(第2水曜日)【題・投句数】『根』2句【合評句会】3月20日(第3水曜日)青森駅前アウガ5階で14:30~【投句・問合せ】toko@okajoki.com 熊谷冬鼓宛 *それぞれの地で一人吟行して作句し投句願います。参加者全員による選・選評をメールで交換。入選句・選評等は後日月刊おかげょうきに掲載。メール交換できる方であれば、おかげょうき会員以外でも参加可。年会費1,000円。【メールでの投句】toko@okajoki.com 熊谷冬鼓宛



□ 2024.3.20 おかげょうき会員雑詠集「無人駅」5句(5月号分)

【締切】3月20日15時必着【提出】雑詠5句、お気に入り1句(最新号からお好きな作品1句とそれに対する簡単なコメントも記入)【掲載】5/10発行号【ウェブサイトからの投句】http://www.okajoki.com/【メールでの投句】moriko@okajoki.com 守田啓子宛



□ 2024.04.06 おかげょうき川柳社本社3月句会

【時】4月6日(土)午後1時~【所】アウガ6階多目的室【投句締切】4月5日(金)15時【宿題】(各題3句詠)『ケース』/『世』/『自由詠』【席題】1題3句詠・2人共選。選者は当日の参加者より選出【川柳ラボ】互選句『運命』1句【ウェブサイトからの投句】http://www.okajoki.com/【メールでの投句】moriko@okajoki.com 守田啓子宛



□ 2024.04.10 「川柳吟行会 ぼ」4月句会

【投句締切】4月10日(第2水曜日)【題・投句数】『酒』2句【合評句会】4月17日(第3水曜日)青森駅前アウガ5階で14時~【投句・問合せ】toko@okajoki.com 熊谷冬鼓宛 *それぞれの地で一人吟行して作句し投句願います。参加者全員による選・選評をメールで交換。入選句・選評等は後日月刊おかげょうきに掲載。メール交換できる方であれば、おかげょうき会員以外でも参加可。年会費1,000円。【メールでの投句】toko@okajoki.com 熊谷冬鼓宛



